

田舎のスナックで  
働いていた別離し  
た義理の母と再会  
して近所のおばさ  
んと一緒に激しい  
3Pセックス

俺は学生の頃に別々になった義理の母  
を探していた

## 父との離婚の後

父と一緒に兄と生活をしていたのだが、

大学に進学し就職して4年目の現在、と

ある知人との話をきっかけに義理の母の情報を得た。

義理の母は突如交通事故に遭い、生死の境をさまよった後人生を方向転換させ

田舎のスナックで働いているらしい。

話を聞いたのは実家の街の母と親交が深かった近隣のおばさんだ。

小さい頃からずっと義理の母だった。

義理だと知ったのは物心ついたとき。

やっぱり母が好きだった。

学生時代も社会人になってからもどこか  
かにその思い出はあったのだが、

それが次第に色濃くなる。

俺は、

おばさんと一緒に一度その義理の母が働いている街へ行ってみようという話になった。

夫と別れ、子育ての義務も夫に移ったので

突如というか一気に母は自由になった。

雰囲気も変わっているとお婆さんは話していた。

・・・・・・・・・・義理の母の住む街へ向かう新幹線の中でおばさんと話す。

おばさんが来ていた薄紫のミニスカートからは妙に妖艶でいろっぽい艶っぽい生足太ももが俺の目の前で顔を出している。

・・・・・・・・・・どうなるのだろうか？



とりあえず会うだけ。

久しぶりの再会にひたすら

俺は胸が弾んでいた。

車窓から見える山々はとても爽やかだ

った。

田舎町に到着する。

「・・・・・・・・母さん・・・・・・・・こんな  
ところに住んでいるんだ」

近々また再婚するという話が出てきて

いる父。

自分自身、一人暮らしで結婚も考えている最近だが、また近々実家にも帰らなければならない。

兄が転勤可能な職場なため実家に帰るという話が出てきている。

駅の南口。

まっすぐ行けば平面な山々が並んでおり

それに並行するように数本の国道が走っている。

マンションは東に進み川を渡ってすぐの場所だった。

しかし時刻は夕方。

おばさんが母と LINE で連絡を取り合い、  
仕事だから直接スナックに来てくれと  
いうことになった。

酒はそれほど飲めない。だがたしなめる。

スナックのカウンターでグラスにお酒  
を注ぎ客たちと話をする母は、

育ててくれたあの頃よりも

ずっとずっと色っぽくなっていた。

(体験版は以上になります。ご読了あり  
がとうございました)